

川崎駅周辺帰宅困難者等対策協議会
ワークショップ報告書
【抜粋版】

平成25年3月

川崎市

1. 訓練の目的

川崎市直下で大地震が発生、川崎駅周辺に帰宅困難者が溢れることを想定した場合、どのような対応をすれば帰宅困難者を円滑に誘導できるのかを、自助、共助、公助の3つの段階に分けて検証する。

自助では川崎駅周辺の主要施設ごとに、単独でどのような対応が可能なのかを検討する。共助では帰宅困難者の円滑な誘導、備蓄食料の提供などを、主要施設間の自主的な調整によって検討してもらう。公助では帰宅困難者の円滑な誘導、備蓄食料の提供などを、川崎市が主要施設間の調整を主導して検討してもらう。

2. ワークショップの概要

(1)開催日時・場所

平成 25 年 1 月 21 日(月) 14 時～17 時 於 川崎市商工会議所 第 5・6 会議室

(2)参加団体・人数

	参加団体名	参加者数
鉄道事業者	J R 川崎駅	3 名
	京急川崎駅	2 名
一時滞在施設	教育文化会館	1 名
	川崎地下街アゼリア	3 名
	産業振興会館	1 名
	幸市民館	2 名
大規模集客施設	アトレ川崎店	1 名
	丸井川崎店	1 名
	さいか屋	1 名
	川崎日航ホテル	2 名
	商工会議所	5 名
	ミューザ川崎	1 名
通信事業者	N T T 東日本(株)	1 名
商店街連合会	川崎中央商店街連合会	3 名
	川崎駅前商店街連合会	1 名
	幸商店街連合会	0 名(欠席)
自主防災組織	川崎区自主防災組織連絡協議会	1 名
	幸区自主防災連絡協議会	1 名
交通機関(バス・タクシー)	東急バス	1 名
	臨港バス	2 名
	タクシー協会	1 名
警察	川崎警察署	2 名
	川崎臨港警察署	2 名
	幸警察署	2 名
区役所	川崎区役所	4 名
	幸区役所	2 名
市役所	環境局	1 名
	健康福祉局	0 名(欠席)
	まちづくり局	2 名
	危機管理室	3 名
合計		52 名

(3)訓練概要・想定シナリオ・想定条件

平成24年度
川崎駅周辺帰宅困難者等対策協議会
ワークショップ

平成25年1月21日

進行要領

スケジュール

14:05～14:20(15分) 訓練の説明

14:20～14:45(25分) Phase1 自助(各施設での検討)

13:45～14:55(10分) 発表、解説

14:55～15:25(30分) Phase2 共助(エリア内での連携)

15:25～15:40(15分) 発表、解説

15:40～16:20(40分) Phase3 公助(行政の支援)

16:20～16:35(15分) 発表、解説

16:35～16:50(15分) 振返り(議論)

16:50～16:55(5分) まとめ・講評

2

Phase1 使用するツール

災害想定カード

[illegible]

ワークシート

[illegible]

Phase1 グループ構成

西口エリア	丸井エリア	アゼリアエリア	モアーズエリア	商工会議所エリア
JR川崎駅 産業振興会館 幸市民館 ミュージア ミュージア 東急バス 幸商店街連合会 幸区自主防災 連絡協議会 幸警察署 幸警察署 幸区役所 幸区役所 危機管理室	JR川崎駅 アゼリア 日航ホテル 日航ホテル 丸井 川崎警察署 臨港バス 臨港バス 川崎区役所 危機管理室 環境局	京急川崎駅 アゼリア さいか屋 川崎中央商店街 連合会 川崎中央商店街 連合会 タクシー協会 川崎警察署 川崎区自主防災 組織連絡協議会 川崎区役所 健康福祉局	京急川崎駅 アゼリア アトレ 川崎中央商店街 連合会 川崎駅前商店街 連合会 臨港警察署 川崎区役所 まちづくり局 東日本電信電話 (株)神奈川支店	JR川崎駅 商工会議所 商工会議所 商工会議所 商工会議所 商工会議所 教育文化会館 臨港警察署 川崎区役所 危機管理室 まちづくり局

Phase1 シナリオ 時間＝2013年1月21日(月) 14時

・被害概況 午後2時、川崎市直下でM7.3の地震が発生。川崎、幸区で震度6強を観測した。

・インフラ(電気、通信、水道) 停電となり、通信は輻輳で使えず、水も出なくなった。携帯電話も直後から輻輳により通話ができない状況になった。

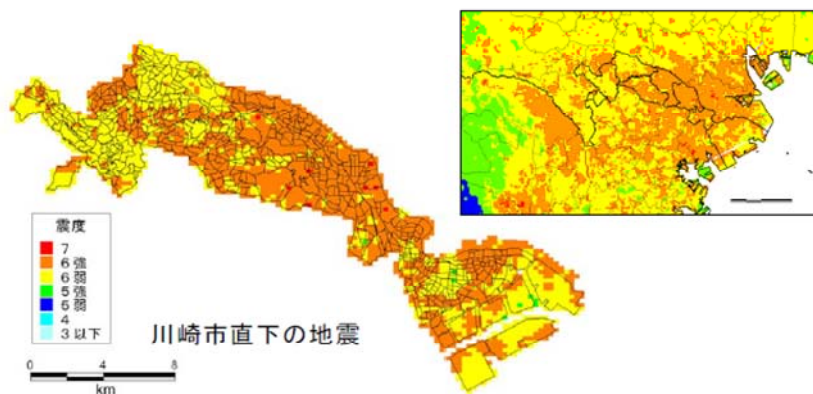
・交通状況(電車、バス) JR、京急は運行見合わせ。その他、首都圏の鉄道をはじめ交通機関は全て止まっているもよう。

・駅前の状況 JR川崎駅、京急川崎駅では、人々が騒然としているが、発災直後ということもあり、混乱は見られていない。

・天気、気温 現在の天気は曇り、気温1度。天気予報によると、このあと天気は下り坂で、早ければ夕方にも雪が降る見通し。

5

Phase1 シナリオ(被害想定)



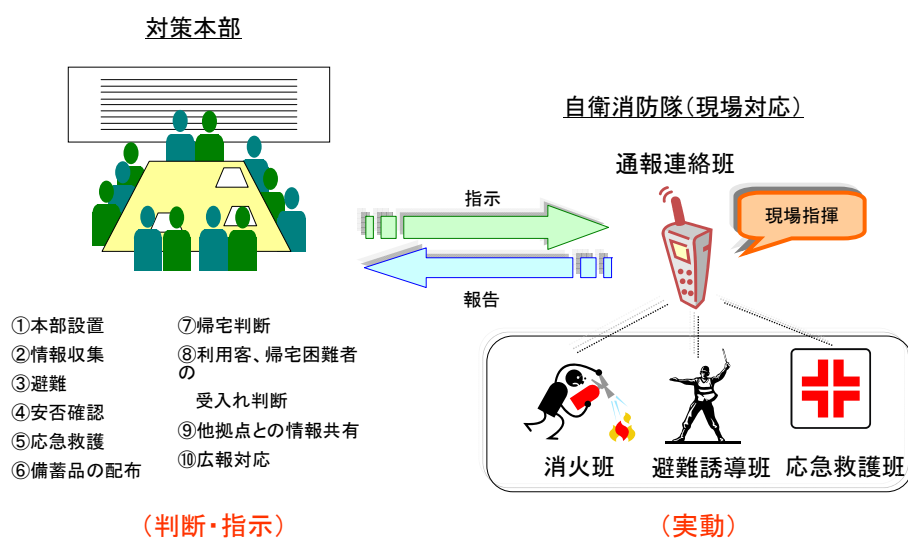
川崎市被害想定:2011.3 6

Phase1 シナリオ(前提条件)

・バス会社の拠点、台数	【臨港バス】浜川崎営業所(川崎区鋼管通5-3-23)、神明町営業所(幸区神明町1-73)、塩浜営業所(川崎区塩浜2-12-21) 【東急バス】高津営業所(高津区溝口5-14-1)、虹が丘営業所(麻生区王禅寺963-8)
・タクシー会社の拠点、台数	【タクシー協会川崎支部への加盟】26社3営業所1,484台 要援護者用のユニバーサルデザインタクシー21台 【川崎区内】9社 597台、ユニバーサルデザインタクシー6台
・広域避難所	多摩川河川敷、川崎競馬場、川崎競輪場、川崎球場、富士見公園、大師公園、小田公園、御幸公園
・無線機	JR川崎駅、京急川崎駅、区役所、一時滞在施設に配備済み
・備蓄品(毛布、水500mlの数量)	アゼリア3,000、教育文化会館1,500、産業振興会館600幸市民館800

7

Phase1 解説 発災直後の対応(対策本部)



8

Phase1 解説 発災直後の対応(現場対応)

- ✓ 発災直後、机の下に隠れるか、カバン・衣類で身を守るように指示する。
- ✓ 災害対策本部(または防災センター)からの指示(放送、呼びかけ)があるまで、その場で社員、利用客を待機させる
- ✓ 但し、火災発生、校舎の耐震性に疑問がある場合は安全な場所に避難させる。

(注意)ガラス飛散範囲は建物高さの約1/2である。

安全の確認が取れるまでは屋外には出ないことが原則

- ✓ 避難誘導の原則(火災発生時)

通路の曲がり角、階段の入り口、エレベータ前(利用を制止)

n階					
3階	●				
2階	出火	●			
1階		出火	●	●	●
B 1階		●	出火	●	●
B 2階		●	●	出火	●
B 3階		●	●	●	出火

9

Phase1 解説 発災直後の対応(自衛消防隊の対応)



10

Phase2 シナリオ＝2013年1月21日(月) 17時

被害概況 発災から3時間が経過。

・駅ロータリーはタクシー乗り場とバス乗り場で、いつ来るか分からないタクシー、バスを待つ人の長蛇の列が出来ており、我慢の限界に達した人たちがあちこちで騒ぎはじめている。一方、家族の安否が分からず、しびれを切らした人が徒歩での帰宅を決め、大勢の人が川崎駅東口から国道15号を目指して歩き始めている。しかし新川橋交差点周辺の建物倒壊により、新川通りは通行できない状況になっている。

・幸区中幸町3丁目交差点付近では大規模な建物倒壊、貝塚1丁目付近では市街地火災が発生している。市、警察、消防とも救出・消火活動で手一杯である。住民からの支援要請に応えられる状況ではない。

・駅売店、付近コンビニでは飲食物、飲料水は全て売り切れ。街頭の自動販売機も停電のため作動していない。折からの寒波により小雪も舞い、屋外滞留者は凍えている。

11

Phase2 シナリオ＝2013年1月21日(月) 17時

・インフラ(電気、通信、水道) 停電、断水が続き、通信も輻輳で使えない。携帯電話も不通である。メールは使えるようだが、かなりの遅延が生じている。

・交通状況(電車、バス) JR、京急は本日中の運行再開はしないと決定。バスも見合わせ中、再開の目処は全くたっていないと発表。

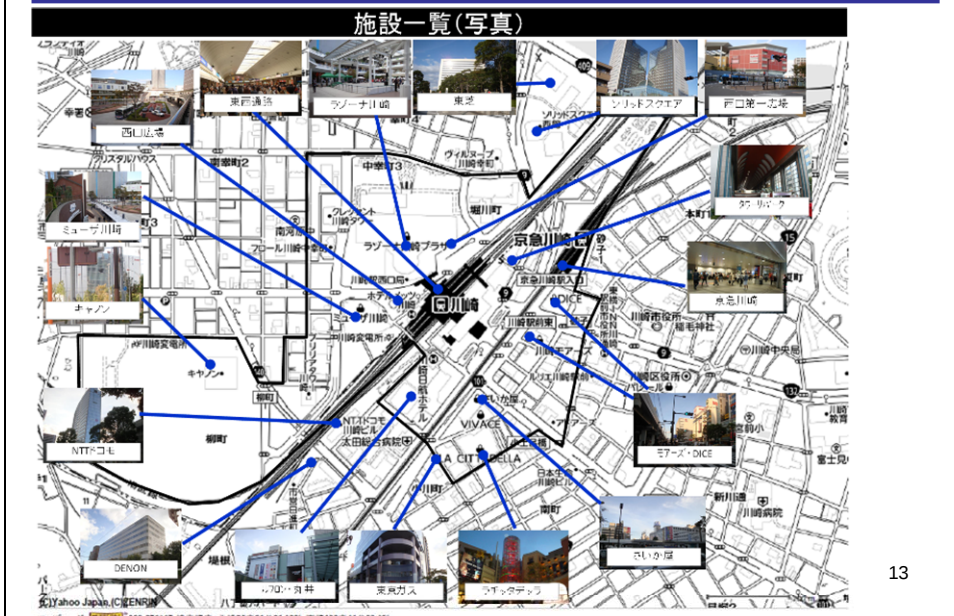
・駅前の状況 駅周辺施設に集まる人は増加の一途をたどり、東西で相当数に達しているもよう。施設によっては収容能力を超えた人員が滞留しているところもある。また滞在者の中には高齢者、妊婦や小さな子供連れの親子もあり、支援が必要な状態である。

・道路の規制 地域防災計画に基づき、駅周辺は一般車両の通行禁止・制限や緊急交通路の確保、通行禁止区域に指定された。しかし国道15号は上下線とも大渋滞であるうえ、歩行者が車道に溢れ出し、緊急車両の通行もままならない状況である。

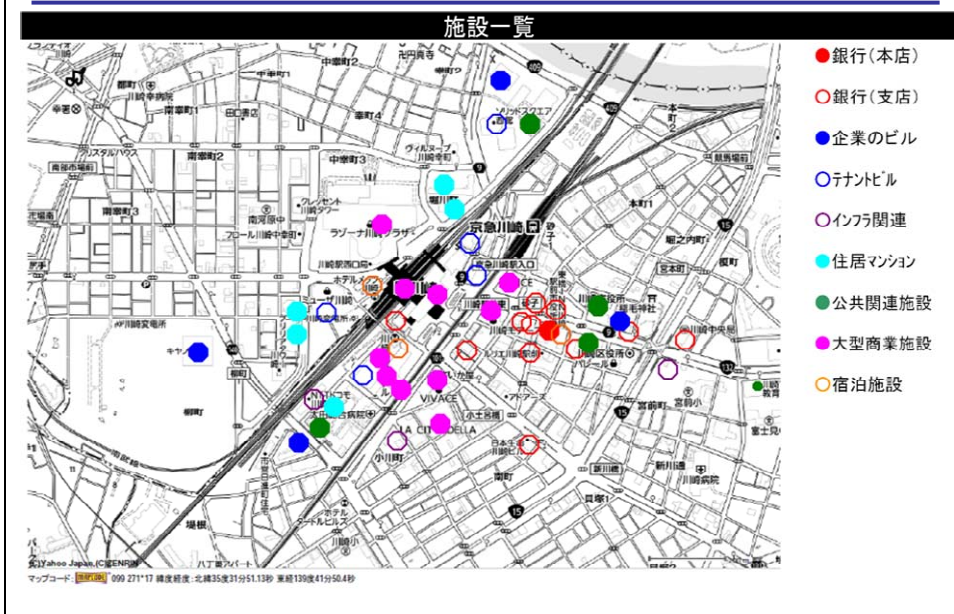
・天気、気温 気温0度、雪が降り始めてきた。

12

Phase2 解説

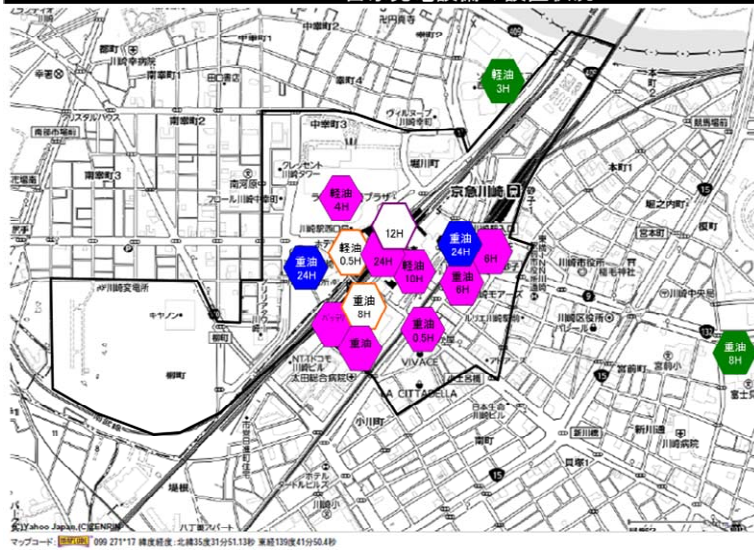


Phase2 解説



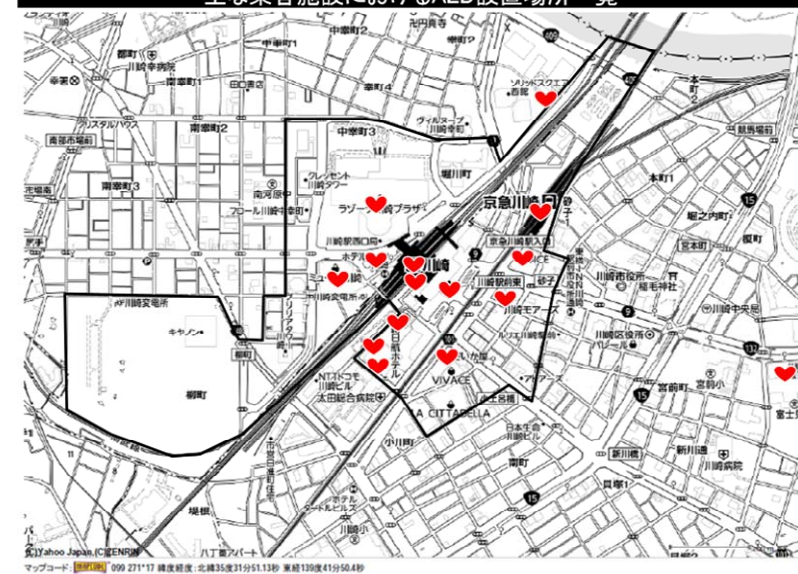
Phase2 解説

自家発電設備の設置状況



Phase2 解説

主な集客施設におけるAED設置場所一覧



Phase3 シナリオ＝2013年1月21日(月) 20時

被害概況 発災から6時間が経過。

・雪は止みそうになく、一層冷え込んできた。駅周辺にいる相当数の滞留者の数は一向に減る気配がない。エリア内での滞留者の移動は一巡し、特定の施設への滞留者が集中することによる危険性は薄らいだように見られたが、局地的に滞留者の間でパニックが起こっているもよう。

・貝塚1丁目の火災は拡大し、いまだ鎮火には至っていない。

・インフラ(電気、通信、水道) 停電、断水が続き、通信も輻輳で使えない。携帯電話も不通である。メールは使えるようだが、かなりの遅延が生じている。

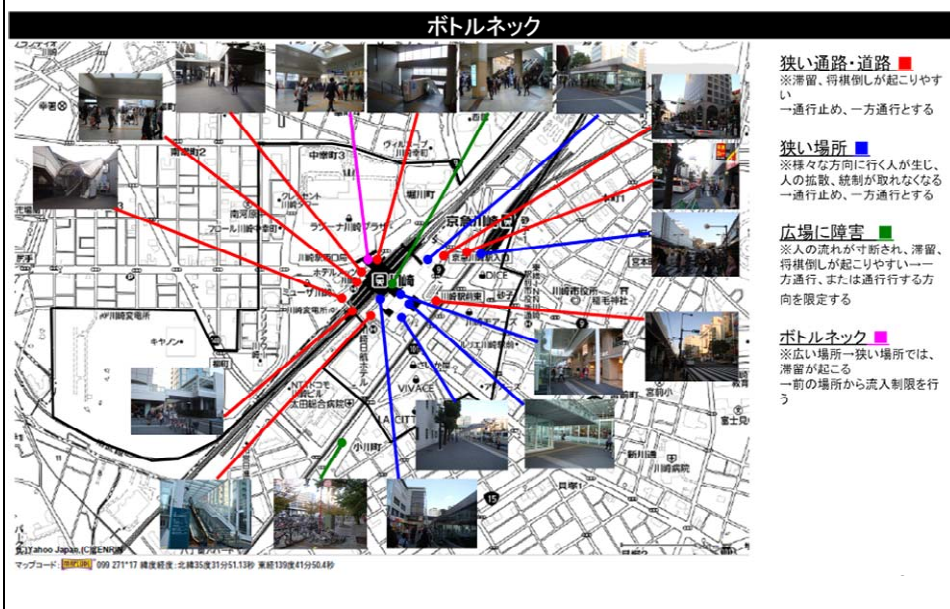
・交通状況(電車、バス) JR、京急は本日中の運行再開はなし。バスも見合わせ中、再開の目処は全くたっていない。

・道路の規制 駅周辺は一般車両の通行禁止・制限や緊急交通路の確保、通行禁止区域に指定されているが、国道15号は上下線とも大渋滞であり、歩行者が車道に溢れ出し、緊急車両の通行もままならない状況が続いている。

・天気、気温 気温-1度、雪が降っている。

17

Phase3 解説



3. 訓練での検討結果及び「災害時における行動ルール」への反映

(1) 自助 (Phase 1)

①現状と課題等

	現状 (検討結果)	抽出された課題、解決策	行動ルールへの反映
1	今回の想定では、発災後、2 時間後が帰宅困難者のピークとなると思われる。	帰宅困難者の建物内受入れが困難な場合、駅前に滞留者が急増する可能性がある。 →駅周辺が駅前滞留者であふれる前にいずれかの施設で帰宅困難者の受入れを開始する必要がある。 →建物内受入れに先立ち必要な作業は「建物の安全確認」「負傷者の確認」「従業員、利用者の安全確認」との回答が多数。迅速に実施できるよう確認箇所手順の作成などを整備する必要がある。	○ ○
2	屋内退避を行った場合、受入期限は交通機関の再開、または翌日までと短期間である	交通機関が長期間停止した場合の対応を、備蓄品も含めて考慮しておく必要がある。 →例えば備蓄品の提供に関しては、発災当日は受入先施設、2 日目以降は行政が行うなど、役割分担の明確化が必要である。	○
3	受入れが長期化した場合、対応可能な施設が限られる。更に、備蓄品のストックについても十分とはいえない	同上	

4	屋外避難の場合、避難先（富士見公園、川崎競輪場など）が事業者によって別々。避難先までの道路が混乱する可能性がある	受入先および避難経路での混乱を防ぐため、避難場所や経路の候補を検討しておくことが望ましい。 →事業者ごとに滞留者数、避難誘導先、避難誘導経路をあらかじめ想定しておく必要がある。	○
5	想定される帰宅困難者の滞留場所（検討結果）		
	①駅周辺、東西自由通路、アゼリア地下街、停電していない建物	①駅近辺で待ちたい人など、一部の施設・事業者により滞留者が偏る恐れがある。 →左記4箇所の想定滞留者数、誘導経路をあらかじめ想定しておく必要がある。	○
	②バスターミナル、タクシー乗り場	②適切な情報提供がないと、運行を期待して行列ができる恐れがある。 →交通事業者との連携、運行再開・運行頻度の正確な情報提供を行う必要がある。	○
	③飲食店、コンビニ	③帰宅困難者が飲食料を求めて殺到する恐れがある。 →可能な範囲で営業継続するなど、店舗運営の協力を要請する。	○
	④周辺道路	④避難経路に帰宅困難者が殺到し、車道にあふれ出すなど混乱する。 →複数の避難先への経路を検討しておく、誘導員を手配するなど、スムーズな誘導を促す。	○

6 想定される帰宅困難者の行動（検討結果）			
	①徒歩による帰宅 ②コンビニ等での飲食料確保 ③トイレの利用 ④宿泊所の確保 ⑤要援護者、急病人への対応	① 5 ④を参照。加えて、バス事業者との連携を図る。 ② 5 ③を参照。 ③ コンビニを活用するほか、トイレの使用が可能な建物を把握しておく。 ④ 一時滞在施設などに運営の協力を要請する。 ⑤ 搬送先を検討しておく。併せて搬送手段として、タクシー事業者に協力を要請する。	
7 想定される混乱（検討結果）			
	①通信不通による状況把握の遅れ ②停電による信号機消灯、道路混乱 ③エレベータ停止による閉じ込め	①特設公衆電話の設置を検討 →NTTに協力を要請、あらかじめ特設公衆電話の設置場所を決めておく。 ②主要な交差点での手信号を検討 →重要な交差点に関しては、あらかじめ抽出した上で対応する。 ③自家発電装置がない建物など、要注意箇所を事前に把握し、対応について検討しておく	○ 今後検討 ○
8 その他（検討結果）			
	①正確な情報の入手	①拡声器、貼り紙など情報伝達手段は概ね確保済み。正確な情報の収集手段の確保が課題。 →かわさき FM、メールニュースを活用	○

<鉄道事業者、一時滞在施設、大規模集客施設の定量的な集約結果>

※フェーズ1 演習シートの集約結果（11 事業者・施設）

※各検討項目に関して大勢を占める意見を網掛けで示す

(i)利用者の屋内退避か屋外避難の判断

屋外避難	7
屋内（構外）退避	4（受入れ可能数は 6,150 人）

(ii)屋内退避か屋外避難を判断するまでの時間

即時の判断が可能	6
0 ～ 1 時間程度	1
1 ～ 2 時間程度	4

(iii)屋内退避か屋外避難を判断するまでに必要な作業(複数回答)

建物の安全確認	9
負傷者の確認	8
従業員、利用客の安全確認	8
ライフラインの確認	2
周辺の危険状況（火災）の確認	1
備蓄数量の確認	1
震度 5 強以上は全員避難	1

(iv)仮に屋内退避の場合、いつまで受入れ可能か

交通機関（電車）が再開するまで	2
交通機関が再開するまで、または翌日まで	1
開館時間内	1

(iv)-1 受入れが長期化した場合、備蓄食料の提供は可能か

条件付で可能（受入れ可能数まで）	1
条件付で可能（要援護者のみ）	1
提供可能（自販機内飲料水）	1
提供不可能	1

(v)屋外避難の場合、どこに避難するよう伝達するか（複数回答）

広域避難所	1
富士見公園	1
川崎競輪場	1
建物の周囲	1
避難所	1
民間大規模集客施設	1
無回答	2

(vi)構内にいるスタッフへの指示

構内待機	7
屋内待機、但し希望者のみ帰宅可	1
帰宅指示	0
その他（構内待機、帰宅指示、半分ずつ）	1
無回答	2

(2) 共助 (Phase 2)

①現状と課題等

1	相応しい受入れ施設の条件 (検討結果)	抽出された課題	反映事項
	①駅と直結している(帰宅困難者の円滑な誘導が可能)	①駅に直結している一時滞在施設は川崎地下街アゼリアのみ。ただし、3,000 人までしか受入れることは出来ない。 →一時滞在施設の充実及び開設状況に関する情報の提供	○
	②交通機関の案内が可能(交通事業者との連携に便利)	②駅、区役所及び一時滞在施設間における緊急連絡手段の確保が必要。 →簡易無線機を整備	○
	③一時滞在施設である(位置付けが明確である)	③川崎駅周辺には現在のところ4施設のみ。 →①に同じ	○
	④備蓄品がある(帰宅困難者への支援が可能)	④川崎区及び幸区で備蓄物を管理している。 →一時滞在施設における備蓄や、区役所で保管している備蓄品の輸送の一時滞在施設利用者も支援も含めて検討する。	○
	⑤その他	⑤川崎地下街アゼリアに帰宅困難者が集中しすぎる可能性がある。利用できない場合の想定も含め、一時滞在施設の確保及び各施設までの誘導方法を地域で共有しておく必要がある。	○

2	相応しい情報受発信拠点の 条件（検討結果）	抽出された課題	
	①受入施設（迅速な情報提供が可能） ②非常用電源の設置（通信機器等の設備の利用が可能） ③非常電話、（防災行政）無線の設置（行政、交通事業者等との円滑な連携が可能）	（その他） ・東口・西口を一体化した初期段階の情報集約及び調整を行う情報受発信拠点を設定しておく必要がある。現状では、川崎区役所及び幸区役所に設置される区災害対策本部で担うこととなる。	

＜共助における受入施設決定のための検討＞

※フェーズ２演習シートの集約結果（５グループ）

(i)受入れ施設の決定（複数回答）

一時滞在施設	3
商業施設（一時滞在施設以外）	2
宿泊施設	1

(ii)情報受発信拠点の決定（複数回答）

受入れ施設と同じ	3
非常用電源の設置	1
非常電話の設置	1
防災無線の設置	1

(3) 公助 (Phase 3)

①現状と課題等

帰宅困難者受入れの課題 (検討結果)		抽出された課題の解決 (検討結果)	反映事項
①一時滞在施設の受入可能数の不足		① (訓練による検討結果) ・一時滞在施設での受入数を 10%増やす (その他) ・一時滞在施設を増やす	○
②情報の錯綜		② (訓練による検討結果) ・情報受発信拠点は 1 箇所とする	○
③対応するスタッフ数の確保		③行政からマンパワーの支援も必要	○
行政に支援して欲しいこと (一時滞在施設)			
①迅速な情報提供 ②備蓄品・備蓄飲食料の提供 ③交通手段の確保 ④スタッフの供出 ⑤受入施設への誘導			○ ○ ○ 備蓄搬入 ○

行政に支援して欲しいこと (一時滞在施設以外)		反映事項
①迅速な情報提供 ②通信手段の確保 ③備蓄品・備蓄飲食料の提供 ④スタッフの供出 ⑤宿泊場所の提供 ⑥交通手段の確保 ⑦要援護者への対応 ⑧医療救護所の設置 (その他) ・自家発電用の燃料調達 ・各企業への帰宅抑制の要請		○ ○ ○ 備蓄搬入 ○ ○ ○ 避難所の 救護所 今後検討 ○
交通機関に支援して欲しいこと		
①交通状況に関する状況提供 ②部分的な交通の再開		交通事業者が対応
通信事業者に支援して欲しいこと		
①通信回線に関する情報提供 ②代替通信手段の案内 ③代替通信手段の提供 ④早期の通信復旧に関する対応		通信事業者が対応

(4) アンケート結果から確認できる課題

- ・ 一時滞在施設数が不足している。(・・・○)
- ・ 駅前事業者の幅広い連携が必要であるため、協議会メンバーを拡大すべきである。
(・・・協議会で検討)
- ・ 一時滞在施設どうしの情報交換が必要である。(・・・○)
- ・ 曜日、季節、時間帯を変えた様々なシミュレーションが必要である。
(出来ること、出来ないこと、要望によって出来ることなどの優先順位付け)
(・・・今後検討)
- ・ トイレ対策。(・・・○)
- ・ 要援護者への支援策の検討。(・・・○)
- ・ 電気が止まった場合の対応の検討。
- ・ 通信途絶を想定した「基本的対応原則」の整備と共有 (・・・一部○)
 - ・ 滞留者の誘導
 - ・ 情報伝達手段の確保 (市から無線機を借用し、帰宅困難者に情報を伝達する など)
 - ・ 二次情報の伝達 など

4. 訓練参加者の発表

(1) フェーズ1 (NTT) 発表

①地震発生直後の通話状況について

- ・ 輻輳は震度6以上で発生する可能性が高い。
- ・ 震度7では、建物の振動を受けるが、通信設備の壊滅は回避できるよう NTT の建物は設計されている。
- ・ また、広域停電への備えとして、電源車（バッテリー）を用意している。

②東日本大震災の際の状況について

- ・ 33 のビルで停電が発生し、最長で 13 時間続いた。
- ・ 揺れは電源には影響しなかったが、輻輳が発生し、深夜まで利用しにくい状況であった。
- ・ 首都圏の輻輳は、深夜1時頃には解消し、通話規制が解除された。
- ・ 大災害が発生すると通話が制限され、被災地では最大 75% (首都圏 40~90%) となる。
- ・ そのため、不要不急の電話は避けて、災害伝言ダイヤル 171 を活用いただきたい。
- ・ また、昨年 web 版の 171 が開設され、PC、スマートフォン、携帯電話から利用が可能になった。

③災害発生後の NTT の対応について

- ・ NTT では、震度5強の地震が発生すると災害本部が設置され、震度6弱の地震が発生した場合は、本部員が参集することになっている。
- ・ また通信が復旧次第、小中学校や要請を受けた避難所等に特設公衆電話を設置する。
- ・ 今後は、安否確認用の回線を、駅や避難所として指定されている施設に、事前に設置することを川崎市の危機管理室と協議していきたい。
- ・ 事業者や関係機関からは、災害時優先電話の復旧要請が多いため、優先的に行うこととしている。

(2) フェーズ2 発表

①西口エリア

帰宅困難者が多数発生した場合、西口には駅とバスターミナルがあるのですが、いざという時はそれぞれの自分たちの中の少ない人数で手分けして対応しなければならないので、施設外に回す人がいないということになります。従いまして協定を除いてということになりますと、商店街を抱えている南第一地区防災隊の中にその認識を持っていただく防災隊作りを進めて頂く必要があります。

それからですね、今回は駅と直結しているということでミュージア川崎を一時滞在施設として1ヵ所決めさせて頂きました。JR 川崎駅の方からミュージア川崎の方へ案内して頂けるということ、バスターミナルの方からも駅の方へ案内していただけるということが必要となります。

②アゼリアエリア

受け入れ先としては川崎地下街アゼリアと決めました。その他に京急川崎駅でも準備ができていたのですが、人数的に少ない状況です。応援のスタッフは、川崎地下街アゼリアが施設内での対応で手一杯のため、近隣の人が川崎地下街アゼリアに帰宅困難者を誘導するような準備を日頃からしなければならないと思っております。

経路は状況によってかわるのですが、日頃から何処が危険かということを調べておく必要があると思います。それによって実際起こった状況をみて、川崎地下街アゼリアへの安全な避難ルートを確保するというかたちをとる必要があります。

水については備蓄がありますし、貯水槽があるので若干水は出ます。いざという時は第三庁舎に応急給水拠点がありますし、そういったところを使いながら提供することを考えています。

情報受発信拠点についても同じく川崎地下街アゼリアを設定しました。非常用電源を持っているので、川崎地下街アゼリアの中でテレビをつけて、足りないところは、京急川崎駅にも被災状況のネットワークや社外電話・非常電話などもありますし、そのように情報は提供しようと考えています。

(進行) 今のところは情報提供のしやすさということ川崎地下街アゼリアを選んだということですね。

③商工会議所エリア

帰宅困難者受入施設としてエリア内で、教育文化会館を選びました。教育文化会館は収容人数も1500名と多い、また備蓄の準備があるということでこちらを選定したということです。スタッフの応援ということですが、次の誘導の経路になりますが、誘導の経路は駅

から市役所通りをまっすぐ行ったところということもあり、商工会議所から拋出して頂くということです。

情報発信拠点については、一番の受け入れ先である教育文化会館に設置しようとしてしました。交通情報、被災状況などをお伝えするにもふさわしいかなとおもい、教育文化会館としました。

（進行）こちら情報を出しやすさということで選んでいただいた。加えて、一時滞在の収容施設ということなのでより多くの方に伝えられるということで選んで頂いたということです。

④モアーズエリア

一時滞在施設につきましては川崎地下街アゼリアにお願いしたいと思います。応援スタッフの手配なのですが、各施設とも基本的には難しいのですが、川崎モアーズさんが川崎地下街アゼリアに隣接しているということから数名出して頂くということにしました。なぜ川崎地下街アゼリアにしたかということ、収容能力が一番多大きいということ。ちなみに、アトレ川崎店のグループの一時滞在施設ではないものも結果的には 400 人程度滞在してしまうだろうということ。アトレ川崎店も同じ商業施設ではありますが、人を出すことは難しいだろうということで、川崎モアーズのみスタッフを出して頂くことにしました。

なぜ川崎地下街アゼリアを情報発信拠点にしたかということですが、今回のワークショップでは、防災無線が設置されているという設定だということで、市役所とのやり取りや、京急・JR など交通機関とのやりとりなど、防災無線を使って情報収集ができると考えたため、川崎地下街アゼリアの防災センターにさせて頂こうということになりました。

（進行）関係機関との連携、連絡の取りやすさということで情報収集拠点を川崎地下街アゼリアを選んでいただいたということで、こちら別の観点で選らんだということです。

⑤丸井エリア

川崎日航ホテルを一時滞在者受入施設ということでシュミレーションしております。ホテルということで、泊まるお役様の客室があったり、宴会場があったりということで選ばれております。帰宅困難者の対応をするスタッフとしては、一番は隣の丸井川崎店、JR 川崎駅からの応援をお願いして、受入施設まで案内して頂くということを想定しております。

帰宅困難者への情報提供につきましては、受入施設でテレビ、ラジオ、ホワイトボード、紙を使って流すということが現実的かと思います。

余談になりますが、3.11 の時、日航ホテルには、宴会場に階段で何百数十名のお客さまがきました。基本的には次の日の始発がでるまで、徒歩で帰られたお客さまもいました

が、翌朝の4時、5時までいらした方がいました。そして1階のフロントには足の踏み場もないほどの外部から来た人がいました。

当時はTwitterで「日航ホテルが受入れている」との情報が流れてかなりの人がきました。幸いにその時は、宴会場などが空いていましたので、収容できましたけれども、実際に宴会のお客さまが数百人いるとか、客室がほぼ満室という場合では、受入の人数も減ってくると思われます。

その時の情報提供をどうしたかということ、電気が通っていましたが、フロントと宴会場でテレビを流し、不安そうな方々へ情報を流していたということが現実になりました。

（進行）こちらは日航ホテルに情報の受発信拠点として、先ほどの教育文化会館と同じように、受入施設で基本的に情報提供をしましょうということで設定していただきました。みなさん、情報の出しやすさ、入手のしやすさ、連絡のとりやすさなど、色々な観点で拠点を設けていただきましたが、当然ながら正解はありません。色んな状況が、地震が発生したときは起こりますので、そのとき、そのときで何を重視するのか、それを重視するときどの拠点が良いのかということで選択して頂ければと思います。

(3) フェーズ3発表

①代表者グループ

川崎区役所危機管理担当課長大野です。

帰宅困難者発生人数ということで、東口・西口で一万強の帰宅困難者が発生しましたということを想定していますので、現在の一時滞在施設の収容可能人数では、とても足りないということになりました。

数字的には具体的に計算していませんが、かなり数字がたりなかったです。つきましては、既存の一時滞在施設へは一割り増しの数字で受入をお願いできないかということにさせていただきました。それでもまだ足りないということで、それ以外に川崎商工会議所、アトレ川崎店にもお願いして、なんとか枠の中で収まるように調整させていただきました。

実際問題かなり難しい数字なのかと思いますが、数字的には収まるかたちで整理させていただきました。

情報受発信拠点として、もともとは東口では川崎地下街アゼリア、教育文化会館、日航ホテル、西口ではミューザ川崎が候補として上がっていたのですが、まず最初の議論として、西口と東口にそれぞれ1ヵ所ずつ持つかという話があったのですが、それぞれ持つと情報が錯綜するだろうということで、1ヵ所、川崎地下街アゼリアに設置しようということになりました。錯綜しないためと、川崎駅から川崎地下街アゼリアは近いので情報のやりとりについても直に駆け付けることができると整理させていただきました。ただ、川崎地下街アゼリアに拠点を設けた場合、スタッフが足りないということができましたので、各区役所から各1名供出することでマンパワーを補足できるのではないかと考えました。

②アゼリアエリア：川崎区副区長

最初に行政に支援して欲しいことについては、全てに○がつけました。その中の優先順位としては、第一位が情報の迅速な提供、第二位として備蓄品・備蓄食料・飲料の提供、第三位として通信手段の確保、第四位として一時滞在施設へのスタッフの供出、第五位として、これはその他ということで、要援護者・要支援者への対応、第六位として交通手段の確保、第七位として宿泊場所の提供といった優先順位がつけられております。

続きまして、交通機関に支援して欲しいことということで、これにつきましては、一つ目が、交通状況に関する情報提供。これが第一位の優先順位。二つ目が部分的な交通の再開ということで、この2点のみということです。その他については議論が色々あったのですが、まずは交通機関に関しては鉄道あるいは神奈川県タクシー協会のほうからですね、再開するにあたって、特に鉄道に関しては全面再開でないと難しいこともあるだろうという意見もでておりました。

先ほどの検討の1に戻ってしまうのですが、今回、想定の中で貝塚の火災が拡大して鎮

火にいたっていない設定ということで、貝塚に関しては本来であれば広域避難施設として富士見公園になると思うのですが、火災が 15 号線を越えて延焼するという可能性は低いのではないかとということで、火災で被害にあった方が、川崎地下街アゼリアに避難してくるのではないかとということも想定されます。そうすると想定の中で当所は滞留者が一巡して、特定の施設への集中は薄らいだという想定になっておりますが、局地的な滞留者のパニック状態が川崎地下街アゼリアへ押し寄せてくるのではないかという意見もありました。

（進行）行政の支援ということで、全ての項目に○がついたということなのですが、その中で特に情報とか備蓄ということで、滞在ということなので、情報受発信拠点という議論もしていただきましたが、情報を的確に出すということと、当然夜を越すのであれば備蓄も必要だということで議論いただいたということです。

このように皆さん今日ほぼ午後半日、地震が起きたときにどういうことが起こるのか、何を検討しなければならないのかということを自助・共助、また公助ということでそれぞれの役割を分担してご議論していただいたということです。